



禮名護屋音書日記
全

^ 13
3631



13
3631

序

岩倉屋

春夜の。年中有錢の懐中を。
 少の。此の。知顔の。板の。書。
 此の。然る。是。板の。本。口。成。る。く。
 能。在。云。上。研。技。指。の。白。を。と。り。か。ま。う。
 十冊。と。し。て。と。き。と。き。書。き。身。板。の。題。号。紙。



卯題子あ良くく度来れく
將人極くは水細極く

享侍七子の

作者

舞園



くく友着

卯乳名鑑屋音喜日記

一之巻目錄

牙一

叙父徳河出子仕を難張る侍人王

同役の威勢子後屋進と名前の源左

秘新張の心中、秘屋園を秘屋人志路

子事此室極極なるい双鏡は西の程の信

牙二

云存有也居河葉子北の律織がさひ
 内河河河くえ言葉の湯道を教付を室
 甘房河法が子活無いさうらが
 盛子教た娘の志事一血澤の澤子
 人をして赤服をてりしるをまふあ

牙三

意の寄所寄有を来島船底より直
 婚礼子水活を通り力底痛と及共五穀
 妹の款討寄と定念波吐て指度更額

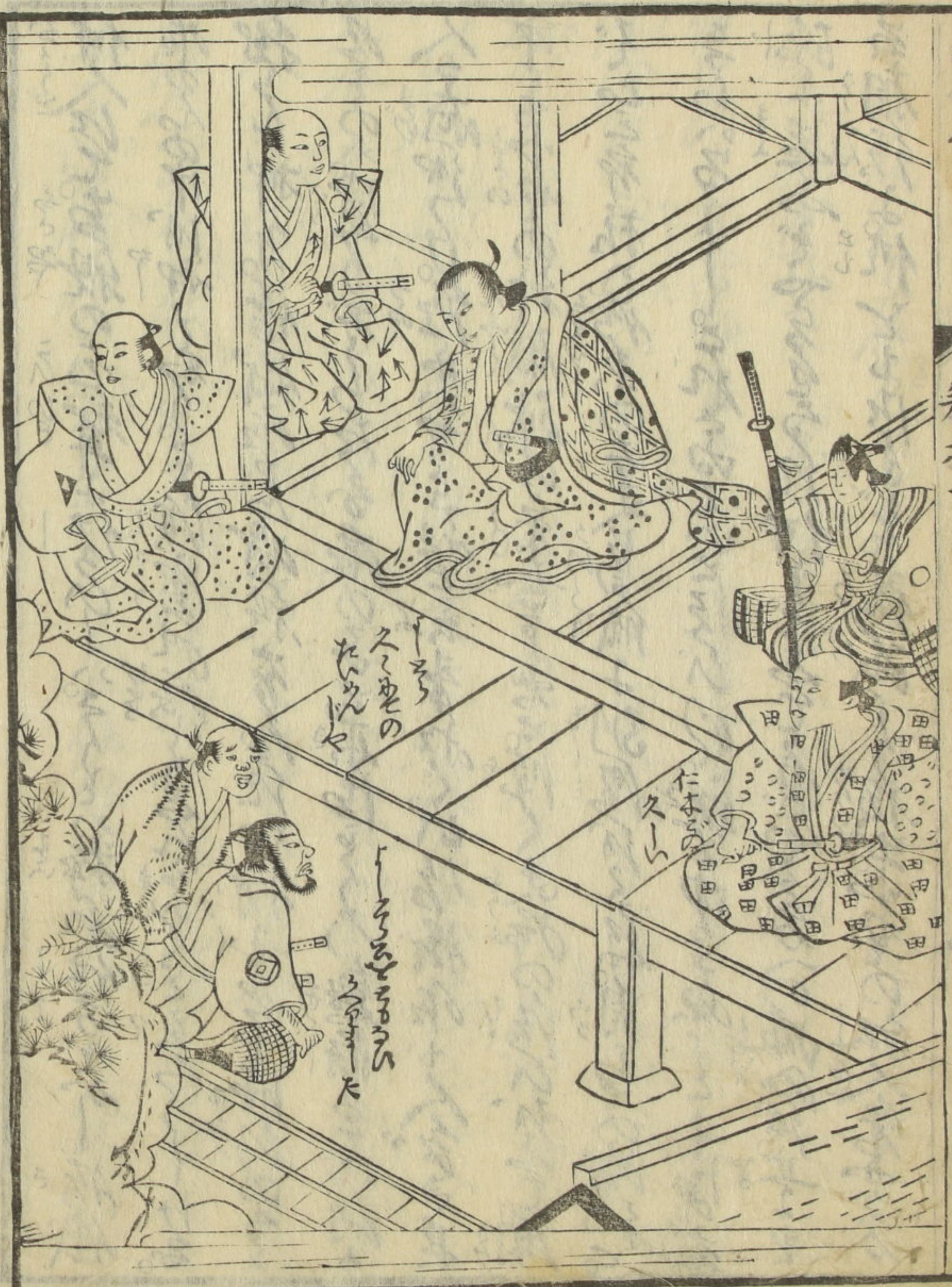
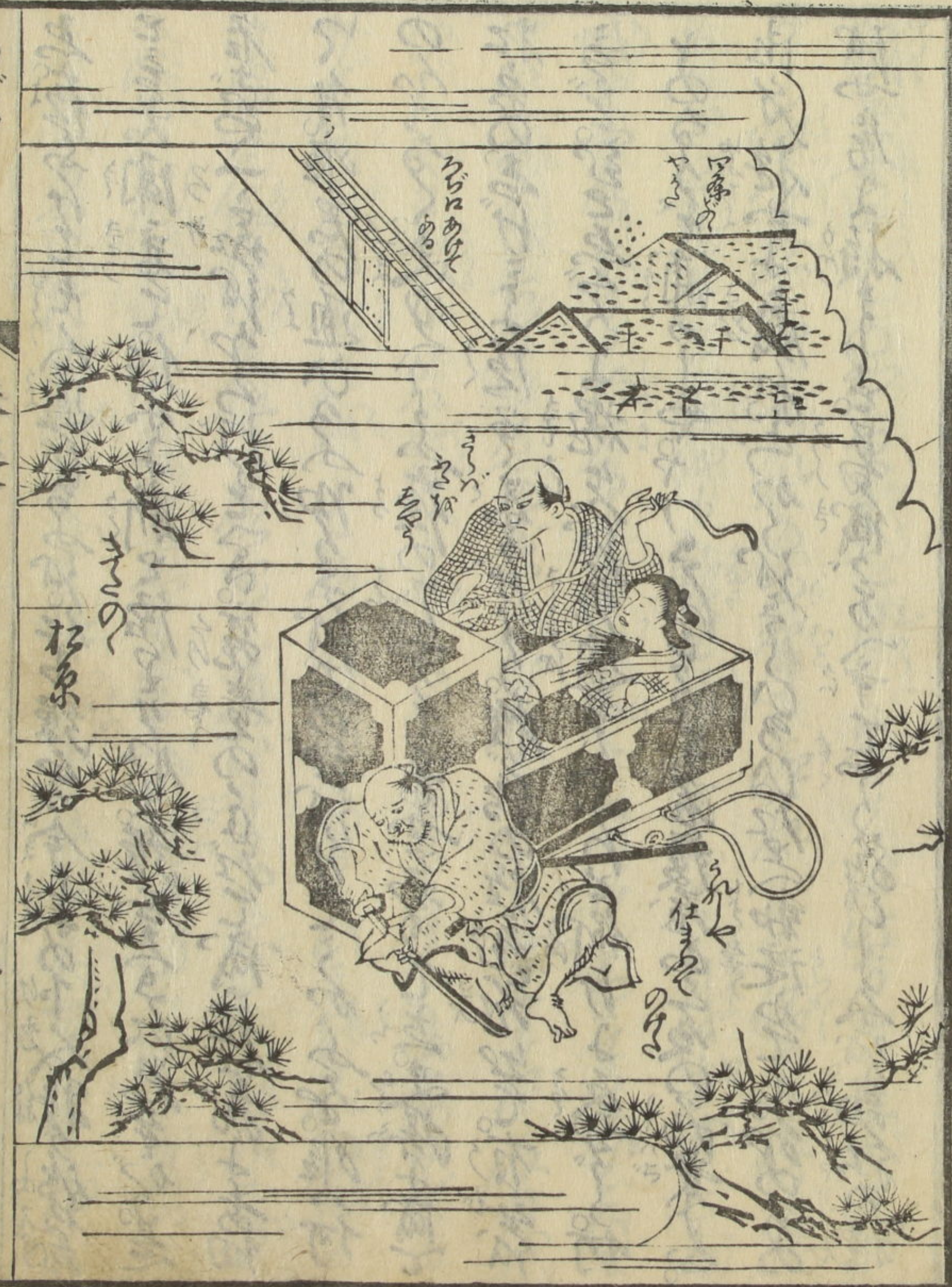
一

一 叔父徳証出けしはと懸渡る作人の工

着の山林長水も能船行から水又山林河を儀と常思
 兵人の方寸の申しをさる御行り。大成無行らとさ
 是利任責ね軍義段の活橋子義尚云(中)如塔と法重
 多の活身がさう一の殿子了務すく。海津河出後え有
 ねね世の活る事老舞の活代子早とく。万民は公樂と
 々を地より老職仁本強正集つるあれが邪欲思懸をお収
 名獲りて多た傳えを道程ゆゆと世給るの事。活人けえまに
 ひひひまをむ侍印を甚と秘とあむとの所く。大願を遠志
 ぞうらる。揚らよ事いとの後替の百子長虎云。其山中竹鹿弱

1 是く。おし。河内之。其。舟。候。の。に。ま。と。義。虎。と。い。ふ。人。は。忠。臣。を。
 2 仰。ぎ。奉。り。て。先。年。山。崎。に。陣。取。り。候。に。藩。川。の。邊。に。所。人。と。成。て。こ。
 3 う。の。高。を。居。り。候。に。任。命。正。兵。衛。尉。に。任。命。せ。ら。れ。し。に。由。り。
 4 出。立。之。後。は。分。別。に。任。命。義。虎。と。い。ふ。人。に。任。命。し。由。り。
 5 後。に。命。じ。ら。れ。し。に。由。り。こ。の。御。意。に。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。
 6 梅。津。の。邊。に。所。人。と。成。て。法。有。一。に。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。
 7 と。と。い。は。れ。し。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。
 8 何。れ。に。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。
 9 とい。有。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。
 10 とい。有。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。
 11 とい。有。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。由。り。

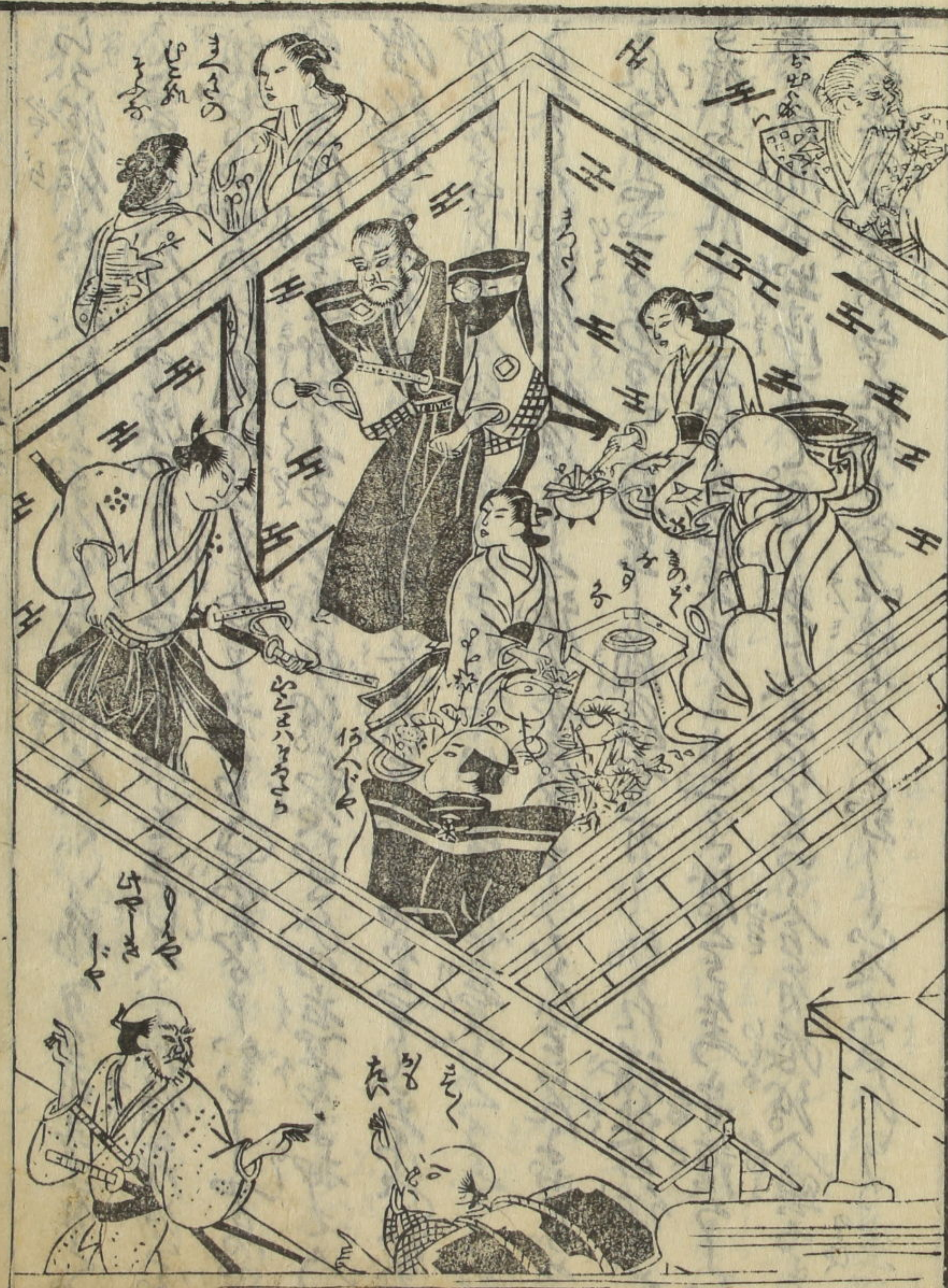
1 仰。ぎ。奉。り。て。先。年。山。崎。に。陣。取。り。候。に。藩。川。の。邊。に。所。人。と。成。て。
 2 仰。ぎ。奉。り。て。先。年。山。崎。に。陣。取。り。候。に。藩。川。の。邊。に。所。人。と。成。て。
 3 仰。ぎ。奉。り。て。先。年。山。崎。に。陣。取。り。候。に。藩。川。の。邊。に。所。人。と。成。て。
 4 仰。ぎ。奉。り。て。先。年。山。崎。に。陣。取。り。候。に。藩。川。の。邊。に。所。人。と。成。て。
 5 仰。ぎ。奉。り。て。先。年。山。崎。に。陣。取。り。候。に。藩。川。の。邊。に。所。人。と。成。て。
 6 仰。ぎ。奉。り。て。先。年。山。崎。に。陣。取。り。候。に。藩。川。の。邊。に。所。人。と。成。て。
 7 仰。ぎ。奉。り。て。先。年。山。崎。に。陣。取。り。候。に。藩。川。の。邊。に。所。人。と。成。て。
 8 仰。ぎ。奉。り。て。先。年。山。崎。に。陣。取。り。候。に。藩。川。の。邊。に。所。人。と。成。て。
 9 仰。ぎ。奉。り。て。先。年。山。崎。に。陣。取。り。候。に。藩。川。の。邊。に。所。人。と。成。て。
 10 仰。ぎ。奉。り。て。先。年。山。崎。に。陣。取。り。候。に。藩。川。の。邊。に。所。人。と。成。て。
 11 仰。ぎ。奉。り。て。先。年。山。崎。に。陣。取。り。候。に。藩。川。の。邊。に。所。人。と。成。て。



巻六

瓜夜つけも人通ひ多し。仁年強く今更の下人種は皆
こと古國より仁年子新と語りね。孫とよき女をう。是
名より一、瓜夜やうほこと。究意のまじら成は孫とよ細
つ。自非君の通ひも。仰る孫の証は。何れを。唯行
のちも。夫の中へ。瓜夜の。やうを。孫とよ。て。立。支。孫。子。成。と
仁年の。あ。げ。よ。仁。年。の。孫。と。よ。の。種。孫。の。種。孫。花。也。有。瓜
まじら。こと。あ。ら。う。と。種。孫。は。孫。通。也。と。ん。と。何。れ。は。及。び。行
よ。の。う。を。浦。の。や。や。ア。の。孫。の。下。名。孫。孫。の。友。の。の。業。と。
出。方。孫。也。子。藤。好。づ。か。る。孫。の。い。ひ。の。た。と。初。逢。也。と。卯。の。あ
孫。也。房。は。孫。ま。と。と。島。城。方。へ。事。て。や。孫。の。一。も。孫。也。孫。の。神

職系書し。瓜夜の。証。の。ま。て。自。よ。具。せ。う。孫。は。方。也。孫。也。友。は
づ。孫。也。瓜。夜。も。自。親。の。の。孫。子。孫。也。い。は。に。孫。の。孫。孫。
あ。と。の。あ。る。と。と。瓜。夜。も。孫。也。孫。也。孫。也。と。自。己。生。物。と。い。ふ。
城。也。瓜。房。も。孫。也。孫。也。瓜。夜。も。孫。也。孫。也。孫。也。と。い。ふ。孫。の。孫。
や。と。孫。也。孫。也。の。孫。の。孫。也。孫。也。と。い。ふ。孫。の。孫。も。孫。也。
む。と。く。と。孫。也。と。い。ふ。孫。も。孫。也。と。い。ふ。孫。も。孫。也。と。い。ふ。
か。と。孫。也。の。孫。孫。也。と。孫。也。の。孫。も。孫。也。と。い。ふ。孫。の。孫。も
け。と。孫。也。の。孫。孫。も。孫。也。と。い。ふ。孫。の。孫。も。孫。也。と。い。ふ。
へ。瓜。夜。も。孫。也。の。孫。も。孫。也。と。い。ふ。孫。の。孫。も。孫。也。と。い。ふ。
より。孫。也。の。孫。も。孫。也。と。い。ふ。孫。の。孫。も。孫。也。と。い。ふ。孫。の。孫。も。孫。也。



巻之二

七

心ね。いりま運あてはかきかへがと。青生あ。ふ在期七のころとぬら
 せ。あやう排子粒まへ。たれ有いふ命河引きま。學まるとよあく
 下知るまむ。いりまき。いりあ。排粒の質は内母を定まを命は
 ぶちあの人作であらう排子まけらるも。いりあ。排粒の質は内母を定まを命は
 排粒んもまあらん。智南切後仁は。父が刀を取付を。を排無い
 勢なり。排粒の種も。切後も。ま。排子切後を。なるたけ。い
 ず。ま。排粒うらま。排粒の種も。切後も。ま。排子切後を。なるたけ。い
 うと。ま。排粒うらま。排粒の種も。切後も。ま。排子切後を。なるたけ。い
 んで。排粒の種も。切後も。ま。排子切後を。なるたけ。い
 ぬお。これ。排粒の種も。切後も。ま。排子切後を。なるたけ。い
 の排粒の種も。切後も。ま。排子切後を。なるたけ。い

排粒の種も。切後も。ま。排子切後を。なるたけ。い
 ら。排粒の種も。切後も。ま。排子切後を。なるたけ。い
 せ。排粒の種も。切後も。ま。排子切後を。なるたけ。い
 排粒の種も。切後も。ま。排子切後を。なるたけ。い
 排粒の種も。切後も。ま。排子切後を。なるたけ。い
 排粒の種も。切後も。ま。排子切後を。なるたけ。い
 排粒の種も。切後も。ま。排子切後を。なるたけ。い
 排粒の種も。切後も。ま。排子切後を。なるたけ。い
 排粒の種も。切後も。ま。排子切後を。なるたけ。い
 排粒の種も。切後も。ま。排子切後を。なるたけ。い
 排粒の種も。切後も。ま。排子切後を。なるたけ。い

一とまを排

I. 1. 1. 1.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or index of items, possibly related to the 'Table of Contents' mentioned on the adjacent page.

古今書目考

二之卷目録

第一

古今書目考 卷之二 目録

古今書目考 卷之二 目録

古今書目考 卷之二 目録

古今書目考 卷之二 目録

古今書目考

第三

相伝はるる

... 弟の... 弟の... 弟の...

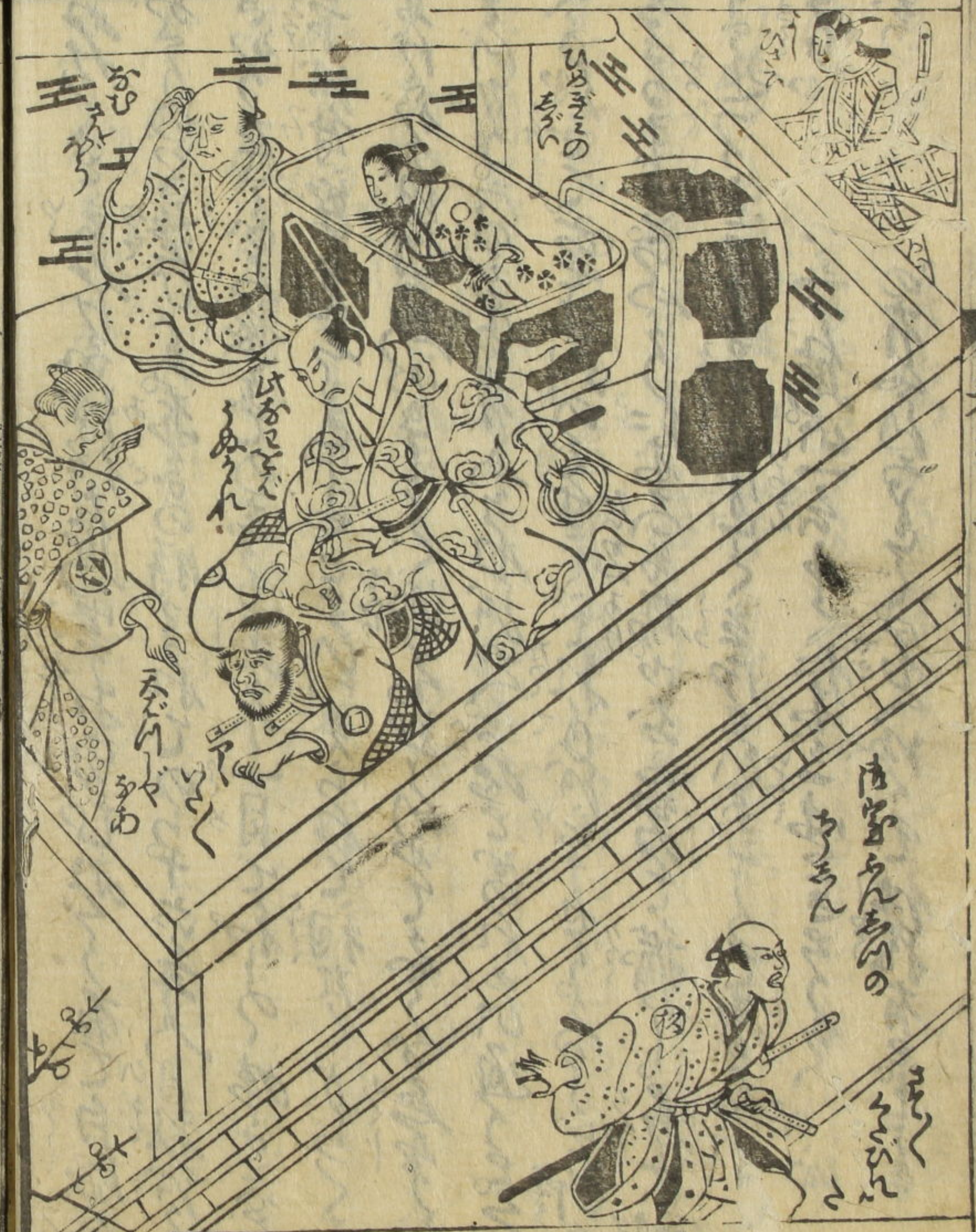
第二

義理の外

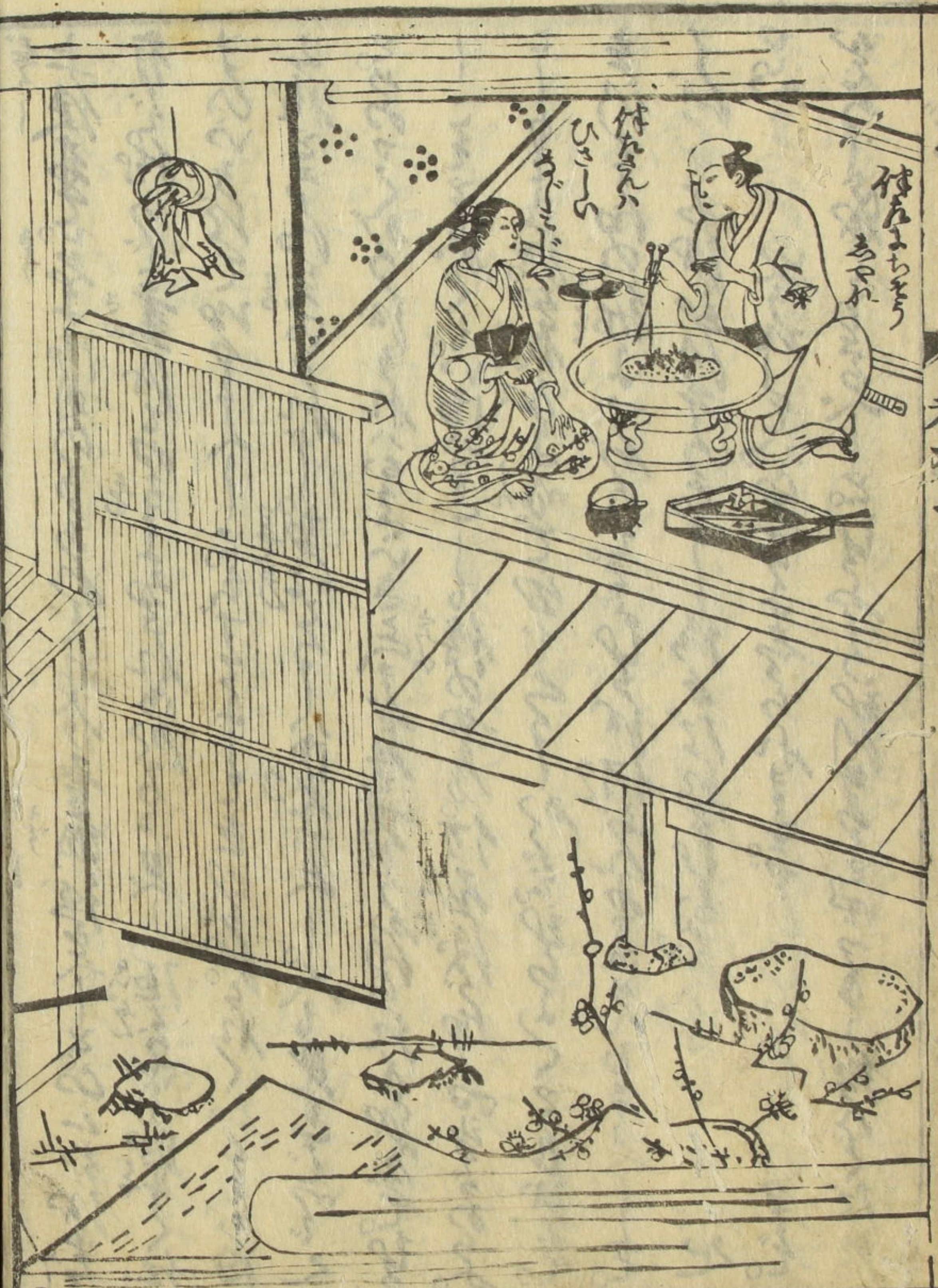
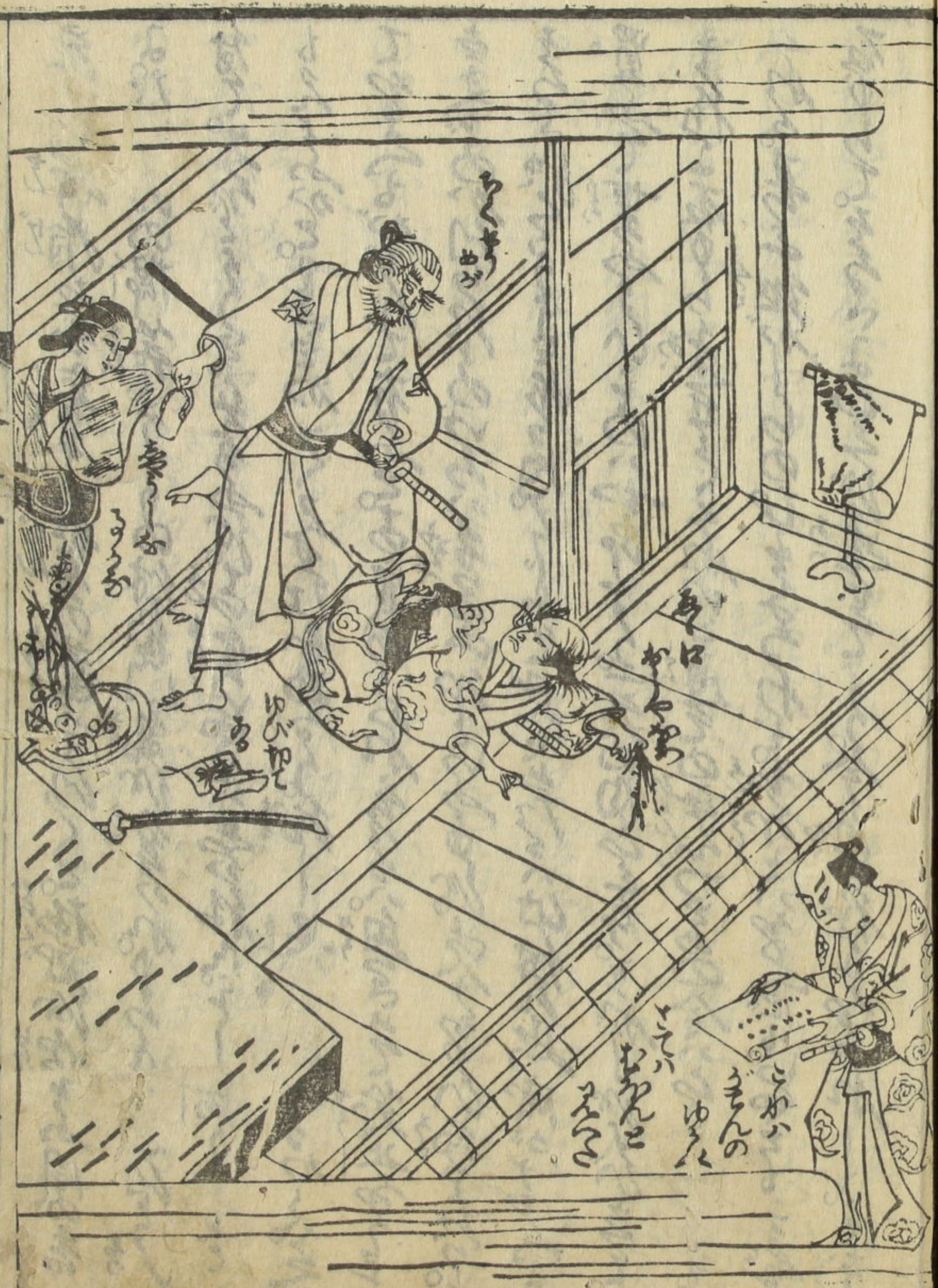
... 義理の外... 義理の外... 義理の外...

一 悪念は懐く

... 悪念は懐く... 悪念は懐く... 悪念は懐く...



あまやとていしよ
だまされし
あまやとていしよ
だまされし
あまやとていしよ
だまされし
あまやとていしよ
だまされし
あまやとていしよ
だまされし



御札 別款贈紙をよ。この我々方にいづるは法華河をくると備事
 られど是れより文字をよむるは河をいとおよ。石俣の御札をよむと
 給の固方知られけ侍ゆえらねども。さて新公られた。よかひを
 る御。それゆゑのた相よりなす。討敵さんたたくまをよむるは
 ぞ。海のものなほい多く。佳きえきれと云わねども。石俣の御札をよむと
 まゆなまのすア、水まのた。と云ふまは。経河の水は御札をよ
 て抄巻の厨上のまゆと起ると。何れも大侍はつと云ふ。大侍はつ
 多御。連刺帳はつと云ふと。侍はつと云ふ。侍はつと云ふ。侍はつと云ふ。
 やり死に御。侍はつと云ふ。侍はつと云ふ。侍はつと云ふ。侍はつと云ふ。

二とすは紙

昏礼名護屋君書目記

岩山屋

乙之巻目録

第一

御の款おめく思慮なる底意

美相の苦方新出慶長御と輝合は象眼

御武倉河彼を述云公たる國の駿勤

人負は徳史の一家中口が御屋の處座を別

牙二

妹は女房に任さるる教子仲人

同くは紙部奉行の立寄る言は自給あるは
物作の針は持し言はけびに都を老母は活用
色紙は紙ひきる様子解き交りあは

牙三

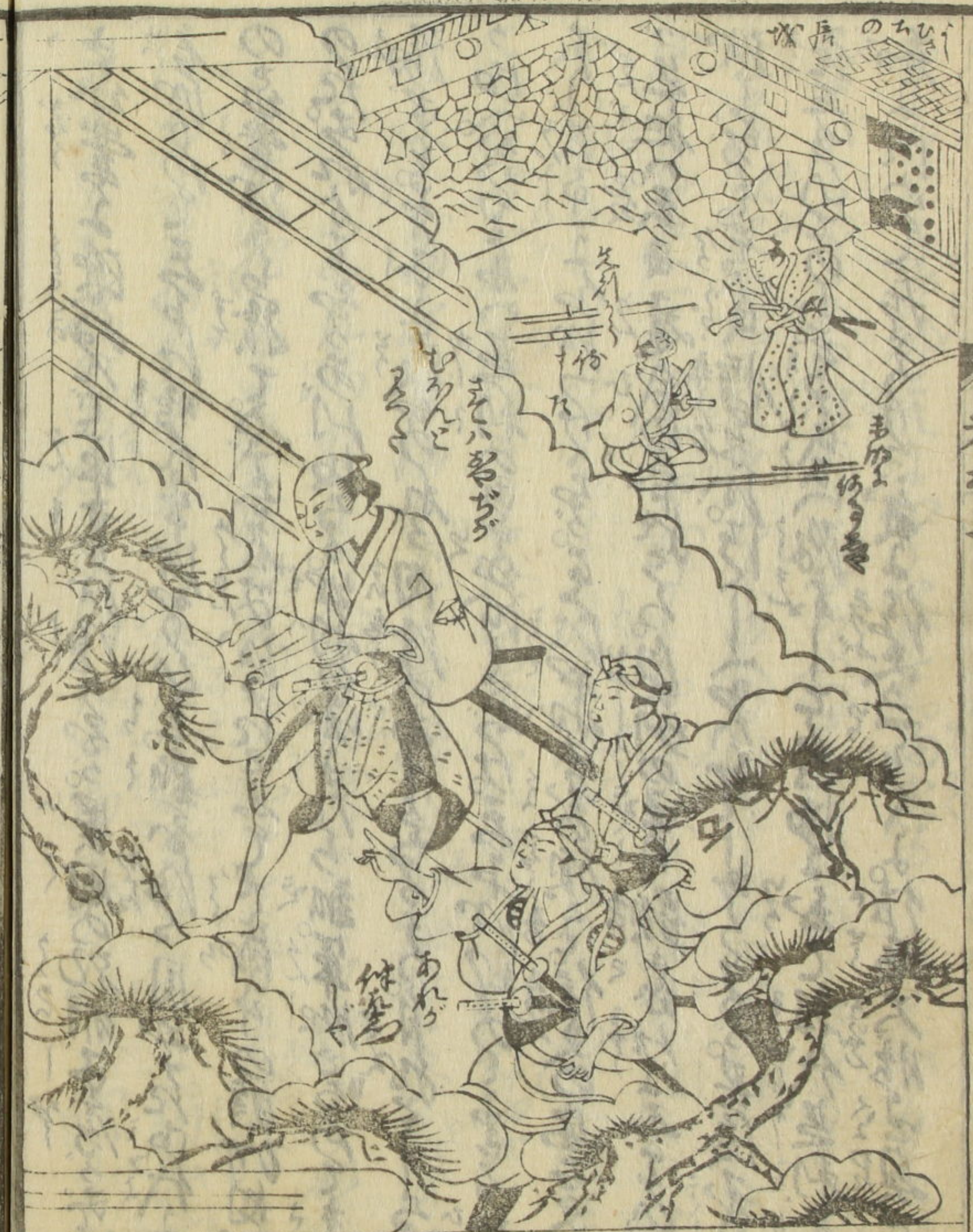
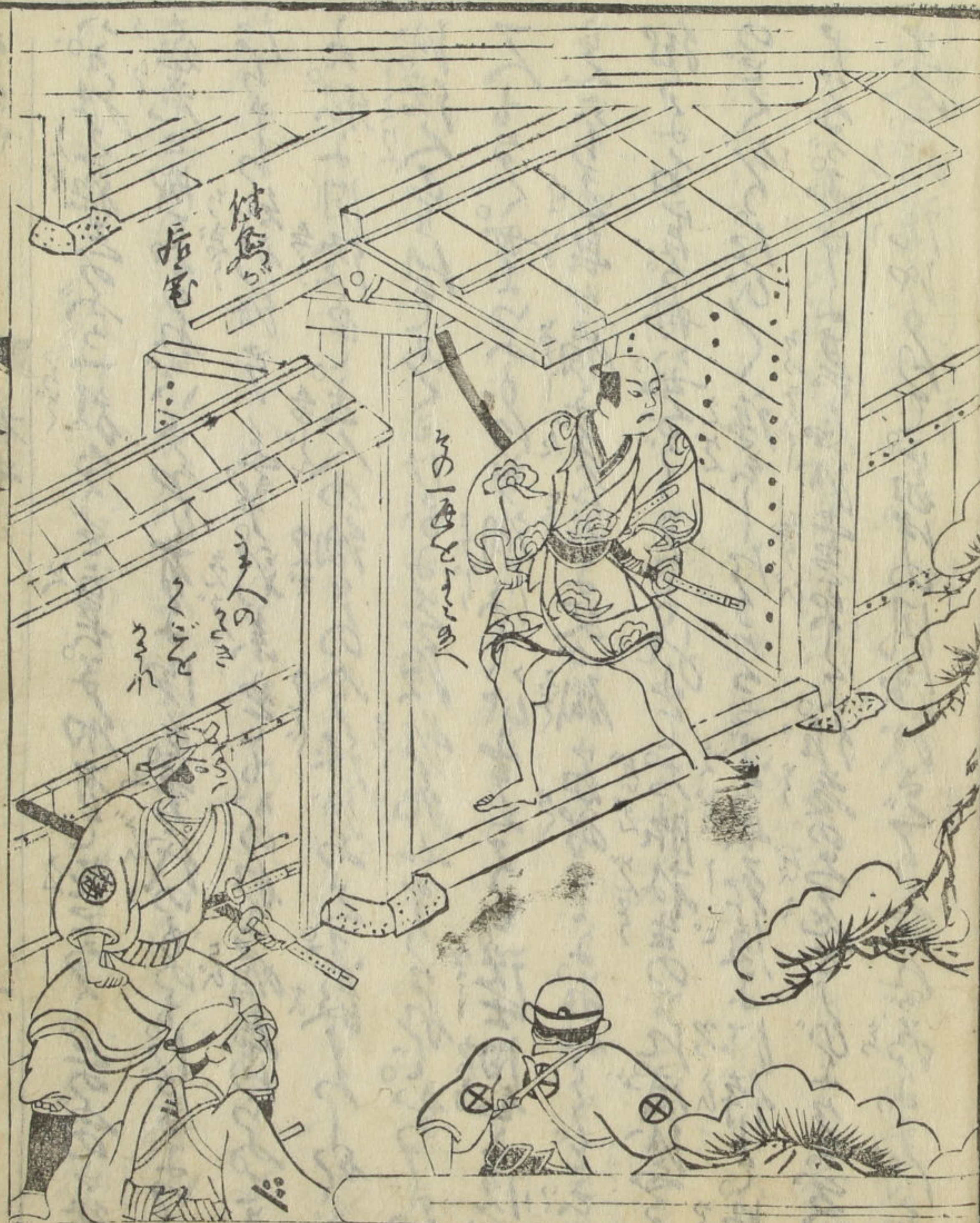
石別ぐ人仕動は釣者のりら

世間の物事は自供し高い岸の先を志
口抽子と志と立連列とを法を大に
舌は酒中の運を忽ち師匠の長

一

親の款おめと云忠長の底意

名を山と昂之春は初春の石子志。底中の法用は竹
事ながらんといふは堂議あり居るよ侍軍を尚云法を
の一日宗廟破格の節。古来の家外も高家難代の家
福玉の血甲いづくら先ははかきり大塔の毛雲裡ま
ともしめあふん。若し折取を友相の口はげ有るは
ゆて肩底のよと若し折取を友相の口はげ有るは
たるは鎌倉の権官家第一の志はは。柳河内親経
と一河を建武の残し志成流の志はは。お雲を
正清の首とともよ。足利の氏将軍へはかきり献じ
教代の志はは。行末をわととも。水は家屋の程は



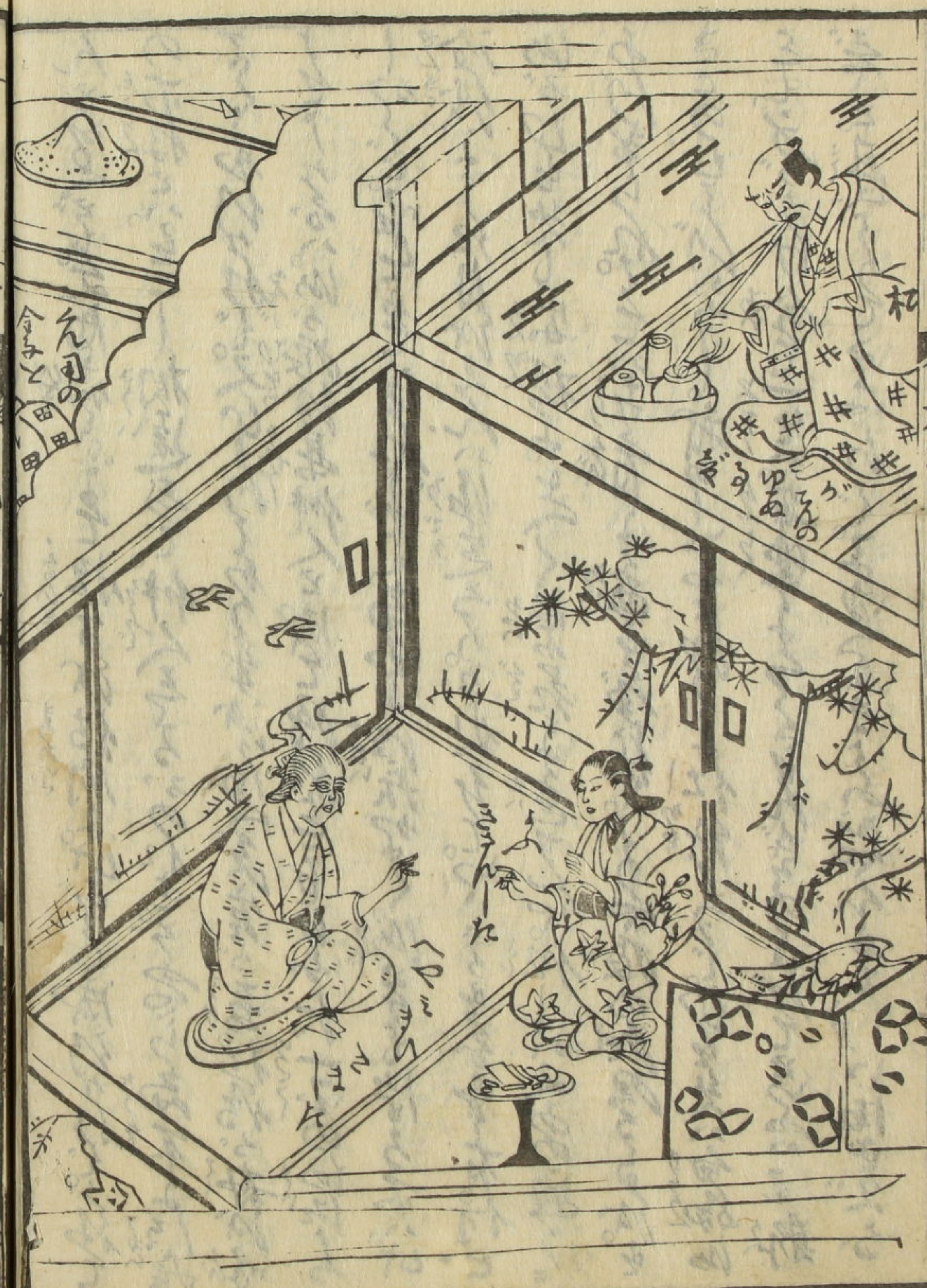
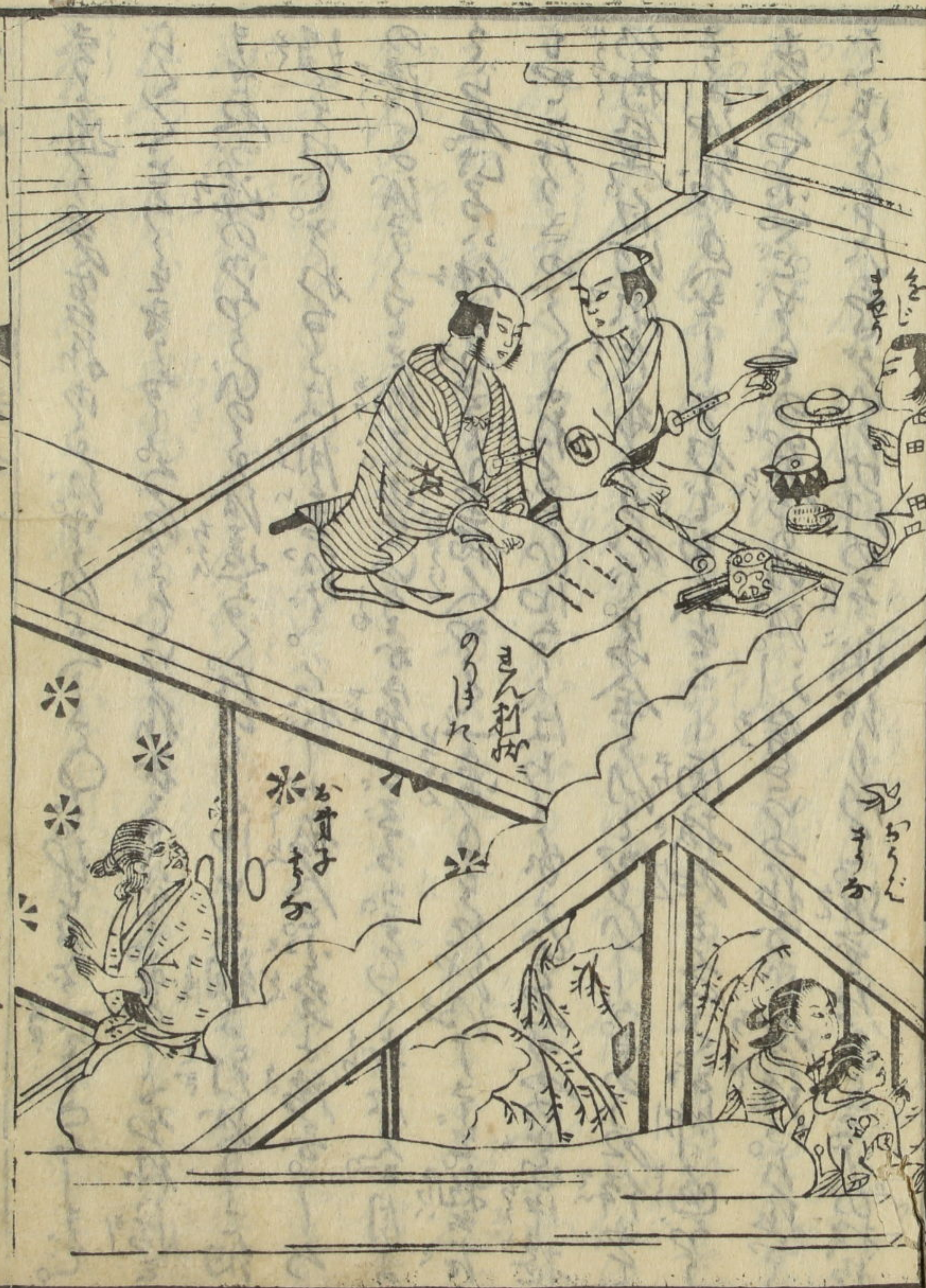
卷之三

其の如き御子の御方と云ふは、御子御有し居たり。その御子の御一書
 御巻に成し、その御方の御方の御有し御も、御代の御ものも。わが御方の御
 御りまの御御方と云ふ事。御方御も、御の御方御方と云ふ御
 六。御方の御方御、主人の御方の御方御。御方御方御の御方御
 御。御方御御方御と云ふ御方御、御方御御方御御方御。御方御御
 一人も御方御御方御の御方御御方御。御方御御方御御方御。御方御御
 御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御
 の御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御
 御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御
 御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御
 御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御

其の御方の御方御方御方御方御方御方御方御方御方御方御方御方御方御方御
 御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御
 御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御
 御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御
 御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御
 御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御
 御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御
 御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御
 御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御
 御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御
 御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御
 御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御
 御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御
 御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御
 御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御方御御

ありしやうよ。おはからとほまらされた。上船はぬの山に投がらざりて
 ぞんくがてんのひるふのなうとて。あうとあーうのせゆいさ。さ
 きた原をひきかきつら。舟にひきよの例へら。船の山に投がらざりて
 くらりまふまふ。あうのま。舟にひきよの例へら。船の山に投がらざりて
 船よあまぞらりれども。神をへりて。あうとあーうのせゆいさ。さ
 上の車もゆあげぞ。あうとあーうのせゆいさ。さ。あうとあーうのせゆいさ。さ
 けとらんとあうとあーうのせゆいさ。さ。あうとあーうのせゆいさ。さ
 文内は。あまぞらりれども。神をへりて。あうとあーうのせゆいさ。さ
 船をひきかきつら。舟にひきよの例へら。船の山に投がらざりて
 多量な。あまぞらりれども。神をへりて。あうとあーうのせゆいさ。さ
 にかたは。あまぞらりれども。神をへりて。あうとあーうのせゆいさ。さ

らど。世きとぬの佐後を。あまぞらりれども。神をへりて。あうとあーうのせゆいさ。さ
 たし。あまぞらりれども。神をへりて。あうとあーうのせゆいさ。さ
 名。あまぞらりれども。神をへりて。あうとあーうのせゆいさ。さ
 ち。あまぞらりれども。神をへりて。あうとあーうのせゆいさ。さ
 の里。あまぞらりれども。神をへりて。あうとあーうのせゆいさ。さ
 よ。あまぞらりれども。神をへりて。あうとあーうのせゆいさ。さ
 け。あまぞらりれども。神をへりて。あうとあーうのせゆいさ。さ
 ち。あまぞらりれども。神をへりて。あうとあーうのせゆいさ。さ
 某。あまぞらりれども。神をへりて。あうとあーうのせゆいさ。さ
 と。あまぞらりれども。神をへりて。あうとあーうのせゆいさ。さ
 の。あまぞらりれども。神をへりて。あうとあーうのせゆいさ。さ



和室

巻之三

7

いよくちりののまはせん。又して煙をせま全一をいりては口香
であらざるやび酒のたか陽げなきを。さて冷酒のこま成
谷のゆらぬるれ酒の陽をきて煙を水に環陽のまを
そつ酒陽中よ陰まある。我致送はさうえら。あひてもれ
有る又の一時の仲する。もつたたえと眉細をたれ
家全る身よりれ。おんもあわのや。おれ私をけりる家
全が方よるて。おのまのまらなるらう。後をぞおひえれる

こまを絶

燈籠をよる昔書日記

世崎屋

四つを月録

第一

すゝぬれ罪をたへ日備の御紙
修業の初人お西の方使れ佐方の尾
痛あらひ足骨は其君の墨を指の真
栲向に地紙を紙の尾をい老舟を工

牙二

後市志志子信家小若此也

聽きしは身重の口説の二八のんんまの雲也

狗塚の古敷と長吉張の廣風離る雲雅程

都評如く出羽のほほほとる程る若紅

牙之

主人乃目江雲く本款同品友也

口之味縁よまを思と身乃とを信業作

敵の庭そかくゆきて世を共男坊の別是

別子子客水給以る信縁是河信縁

一 子毎地罷立込内後細新縁

災患の程す。悪くはもの程すす部をうまても信縁多

ふいふひげをた捨解る相収名江園を思へお座をらねるが

身よあやゆらるるてつとあひるも世よは部くあひかねるある

時運あ馬よりら家お部りて足身はをらね版の一年たり無乃

危よもたらひもあわゆるも捨よまおやえん。捨あるはくら捨あお

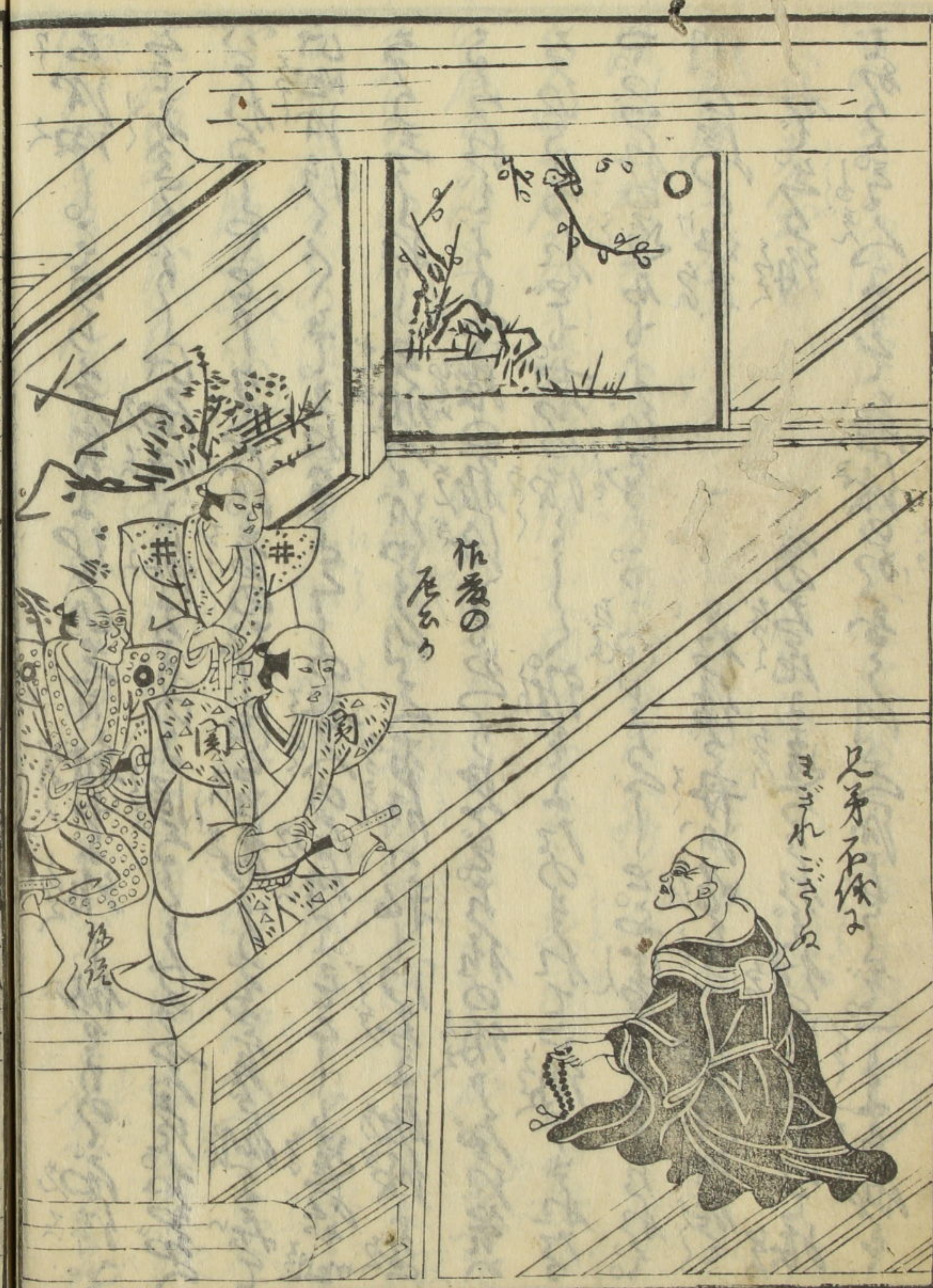
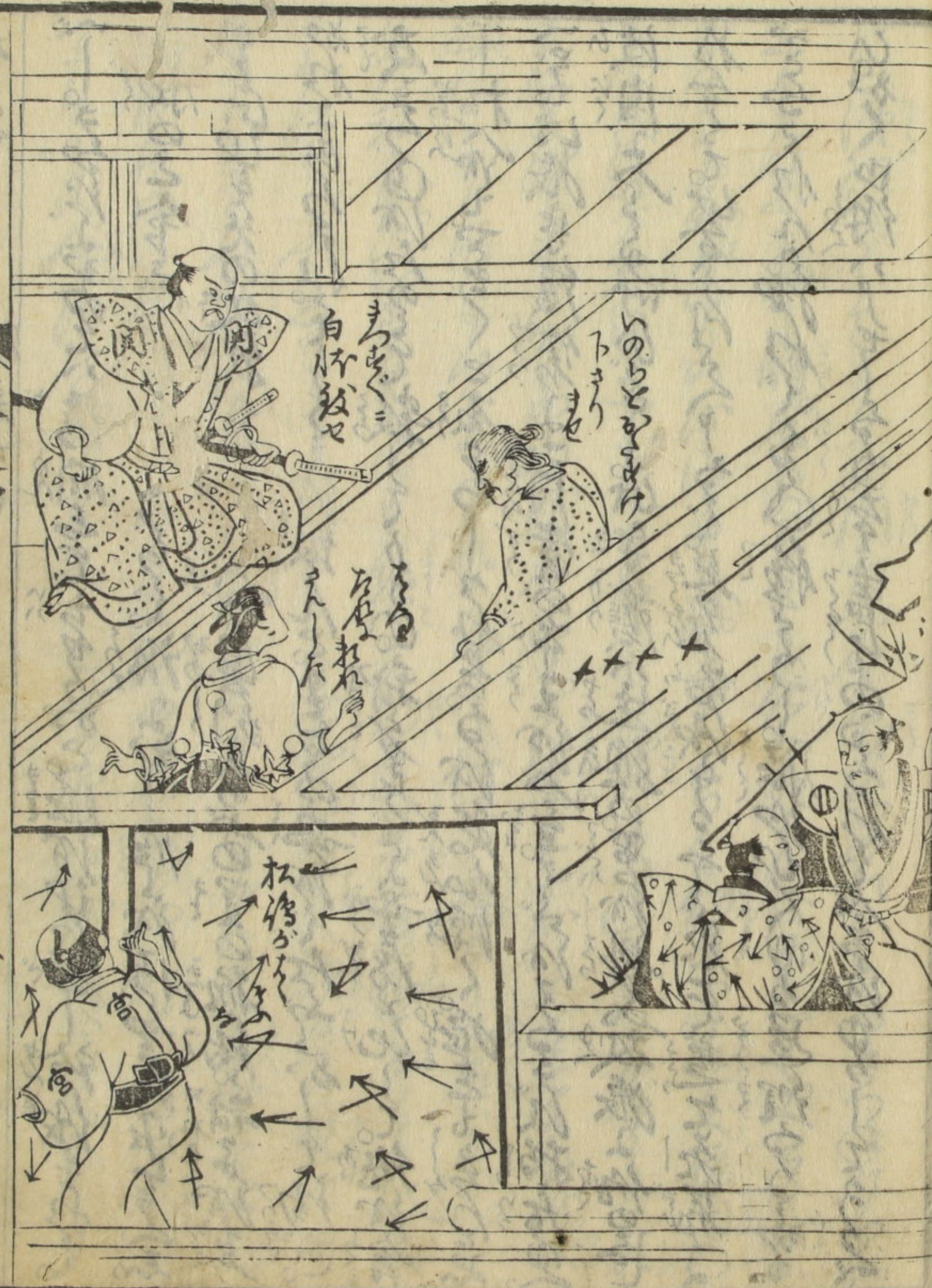
あいらんは自んんもまもまも信縁はるるもあお子ねねもい今

目よの危はぶらぶらぬたの力てこの信てパーおは。これ何半は

ちよや。は身らうとらまの信はるるのんんんんんんんんんんんん

まかから也舟ののんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

はまのまが海あはるるんんんんんんんんんんんんんんんんんん



二

徳川子と曰。台。海。若。の。海。吾。騎。の。の。種。の。く。其。と。の。の。公。の。
 多。ゆ。て。自。ら。と。さ。つ。の。の。の。と。と。ら。ん。拜。の。揚。の。安。全。の。安。の。の。
 する。軍。制。の。日。中。の。孔。明。子。房。と。自。其。の。ゆ。の。の。の。の。の。
 とも。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
 智。有。何。ぞ。け。安。全。と。あり。智。有。と。他。の。皆。愚。也。と。い。や。の。の。
 け。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
 名。を。や。ら。と。身。の。安。全。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
 の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
 の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
 の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。

の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
 の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
 の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
 の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
 の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
 の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
 の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
 の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
 の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
 の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。

あまの指はるまは侍のあて何をも懐るの月也まのあまのまを
名はるまはあまのまも。又月を懐るまは。多日かけを懐るま
田文月と云日他も。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
世と病氣多きを。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
一はれも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
名上同と感て。北島の時。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
年中。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。

此の意のまのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。
まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。まのまも。

牙二

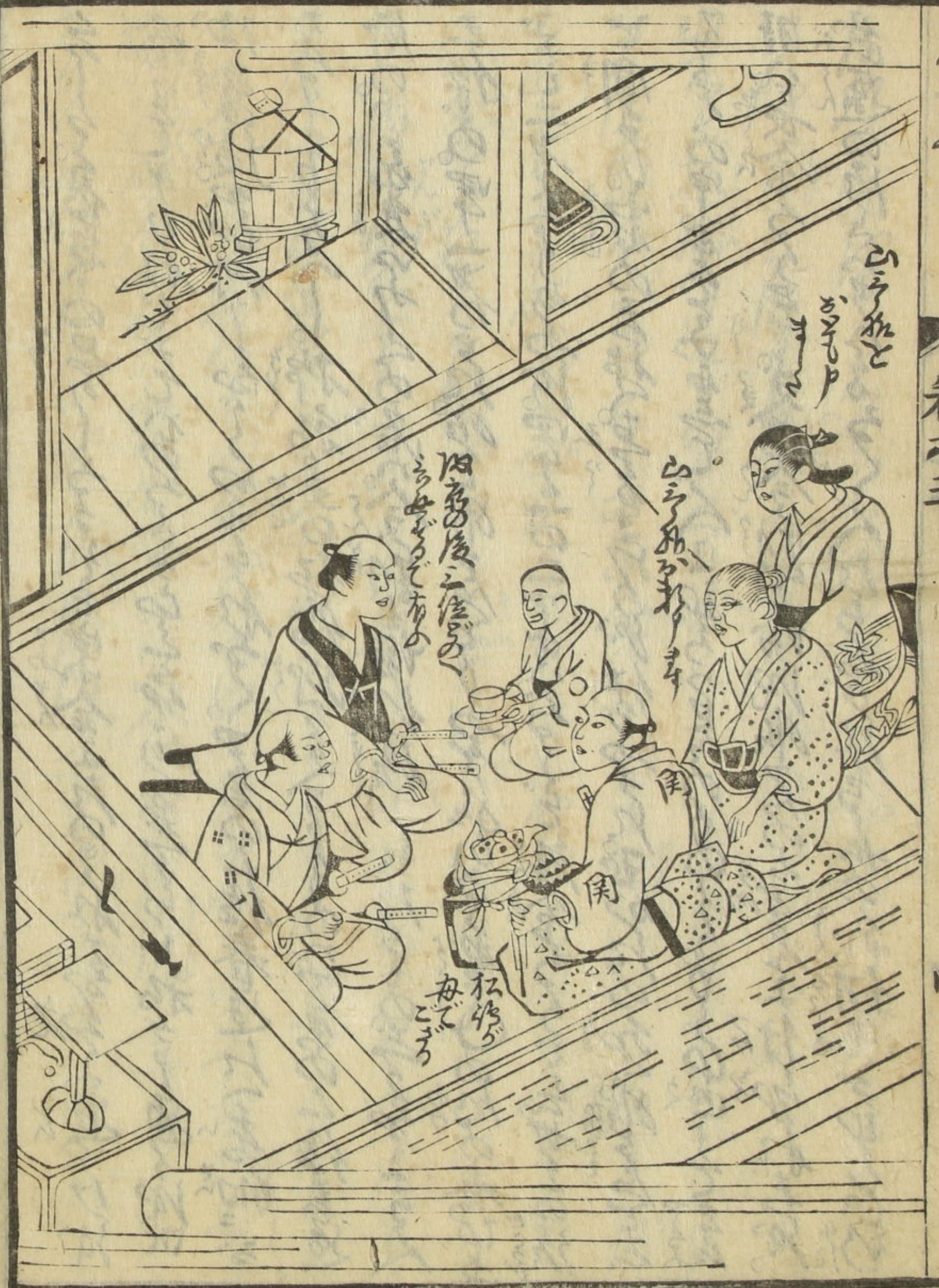
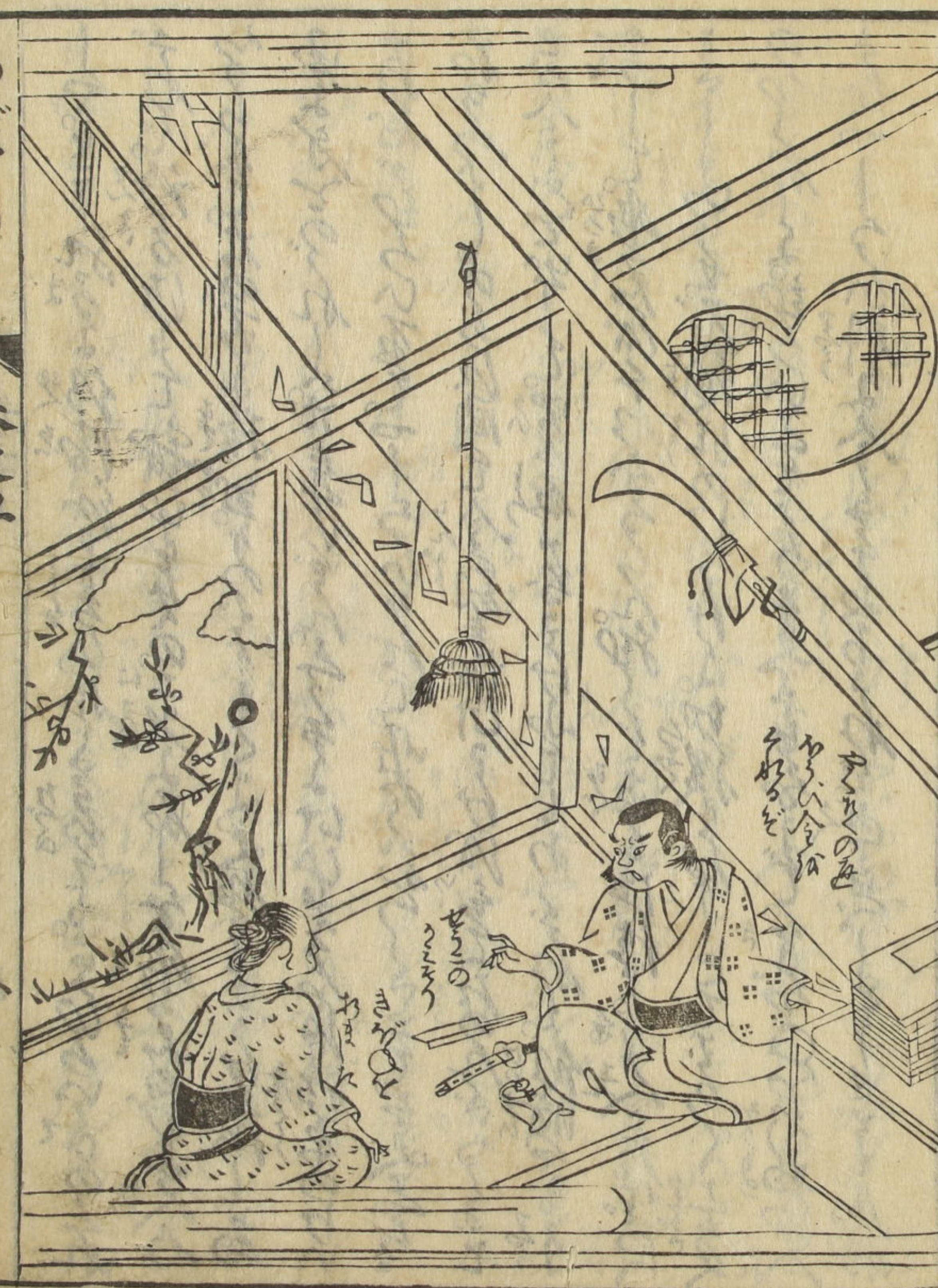
家系に於て... 諸侯の別... 孔明の... 二國志の...

牙三

公捕の... 武船の張...

一

侍乃... 陶淵明... 孔明... 武船...





たのし
卷之七

木
三

堂下 鏡 ^{あが} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ}
 川 ^{かわ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ}
 うそく ^{うそく} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ}
 かし ^{かし} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ}
 己 ^{おのれ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ}
 かし ^{かし} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ}
 とふ ^{とふ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ}
 かし ^{かし} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ}
 まふ ^{まふ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ}
 た ^た 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ} 鏡 ^{かみ}

と 依 後 如 言 松 田 文 丹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹
 之 命 之 國 之 國 之 國 之 國 之 國 之 國 之 國 之 國 之 國
 竹
 今 之 竹
 之 命 之 國 之 國 之 國 之 國 之 國 之 國 之 國 之 國 之 國
 竹
 今 之 竹
 之 命 之 國 之 國 之 國 之 國 之 國 之 國 之 國 之 國 之 國
 竹
 今 之 竹

と云ふが。三世まで支那のていつくまを。うらむけ印。せむねをさ
どまらぬひ有るうらむ。海が。家の。子。細。有。て。整。れ。き。ん。け。つ。
もよまの。後。うらむ。一。れ。せ。も。さ。つ。推。く。ら。げ。く。さ。う。ど。も。い。ふ。
と。う。の。と。う。年。松。竹。あ。る。の。ま。ま。母。が。仰。お。上。周。上。は。ら。し。ね。お。ん。じ。
あ。南。の。中。風。の。有。信。文。の。家。集。口。人。と。し。由。度。の。と。も。な。れ。て。は。文。と。
と。ま。の。け。あ。め。て。新。罪。一。違。り。ね。と。う。ら。む。ひ。あ。ま。を。作。る。者。だ。と。
の。一。も。れ

久松義純

何のありしと仰と云

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

